

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-1 道路網の整備と維持管理

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農地整備課長 高橋 裕司 電話番号 0852-22-5149

事務事業の名称	広域営農団地農道整備事業	
目的	(1) 対象	農道を利用する農家等
	(2) 意図	県内広域ネットワークの形成や市町村間アクセスの利便性向上に資する農道の整備により、農産物輸送等の効率化を図る。
事業概要	・農道を利用する農家等が行う農産物輸送の効率化を図るため、広域営農団地農道整備事業を実施する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	農道の供用開始延長	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		48,300	49,100	51,300	51,900	
式・定義	農道整備において工事及び事務手続きが完了し、農産物輸送や一般交通が可能となった延長を指標値とする	実績値	45,500	47,500	48,100	51,400			
		達成率		98.30	98.00	100.20		%	
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
								目標値	0.00
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00				
		達成率		0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b)(千円)	1,051,470	340,764
うち一般財源(千円)	28,385	10,974

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・評価対象である8地区の内、6地区がH24年度までに完成し供用を開始しており、継続中の2地区についてもH27年度中に供用を開始する予定である。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・事業完了及び部分供用開始により、農産物や一般交通にとって利用可能な農道の延長が着実に増加している。

・供用開始予定区間において法面調査等を実施し、予防保全が必要な箇所については、県単事業により保全対策を実施することで、法面崩壊等を未然に防ぎ、確実な供用開始につなげている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・平成27年度に予定区間すべての供用開始が見込める状況であり、特に課題は生じていない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・特に課題は生じていない。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・特に課題は生じていない。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・平成27年度に予定区間すべての供用開始が見込める状況であり、目的は達成される見込みである。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）